

モリタ創業100周年記念シンポジウム

口腔のケアが全身疾患を救う

～口腔の健康を生涯守るために“今”すべきこと～

2016年11月23日(水・祝) 13:00～17:30 (予定)
東京国際フォーラム ホールB5

長期症例を 奪回せよ

歯科衛生士が長期症例を発表する時代になりました。いやいや、当たり前のことです。歯科衛生士は動的治療でもSRPやOHIを通じて積極的に患者さんに関わりますが、なんと言ってもメンテナンスにおけるプロケアの主役です。なので長期症例になると患者さんとの付き合いはより強く、深くになります。歯科医師が“自慢げに”長期症例を発表したりしていますが、実は長期症例は歯科医師のものではなく、歯科衛生士のものなのです。

「気づいたら長期症例になっていた!」ということが多いものの、長期にわたって患者さんに継続的に来院していただくためには、「それなりの」工夫が必要になります。本講演では他の3人の演者に先だつて、そのノウハウをこっそり伝授したいと思います。思いつき、...、自慢げに、...

山本 浩正 先生 大阪府豊中市開業・山本歯科、PEC主宰

“気づき”を与えられる 歯科衛生士に!

生涯自分の歯で咬むためには、当たり前にある歯の大切さに気づき、自分でしっかりと管理することが重要です。しかし、私たちは当たり前にあるものの大切になかなか気づかないものです。歯周病に罹患してもすぐに痛みがありませんし、小さいう蝕であれば痛みも少ないため後回しにされている方も少なくありません。そんな患者さんに私たち歯科衛生士として歯の大切さや、歯磨きの重要性などの気づきを与えることは、患者さんの未来を大きく変えることに繋がります。患者さんによって、何が“気づき”のキッカケに繋がるかは、異なります。ですから、患者さんをよく観察し、興味を持って接することで、患者さんのモチベーションアップの機会を捉えることができるのです。

今回は臨床での“気づき”を症例を交えてご紹介します。

石原 美樹 先生 株式会社COCO DentMedical 代表・フリーランス・DH

人を支える立場から 見えること

誰もが最後まで健やかに暮らしたいと願っていますが、生活環境や価値観などは様々です。このような中で、私たち歯科衛生士は口腔の健康を守るという仕事を通して、一人でも多くの人に、少しでも長く食べることの幸せや大切さを実感してもらえるようにサポートします。初診から、治療、メンテナンスに至る流れの中で、患者さんにとって一番身近な立場から、患者さんの日常を垣間見たり意外な思いに触れる機会がたくさんあり、人を支える仕事の奥深さを感じています。

長く来院されている患者さんとのかわりから学んだことを、これから新たに向き合う患者さんに活かしてつなげていきたいと思っています。

大住 祐子 先生 大阪市・貴和会新大阪歯科診療所・DH、JIADS DHコース講師

生涯メンテナンスを 支えるという使命

現在、歯科衛生士によるメンテナンスは健康長寿を目指すためのサポートセラピーとしての意味合いが強くなってきています。長期メンテナンスが口腔内だけでなく全身の健康に貢献することが分かってきたからです。しかしながら、長期的視点で患者さんをみると、口腔だけでなく身体は常に変化があり、また年齢を重ねる毎に多くの疾患を発症されてくることに悩まされます。そこで生涯メンテナンスには、長期、継続的な観察力と全身疾患の知識がなくてはなりません。今回は2つの症例から私たちに与えられたミッションを学んでみましょう。

小林 明子 先生 東京都・小林歯科医院副院長・DT&DH